

法令を順守し信頼・信用されるJAへ

企画管理課

個人情報管理の重要性について理解を深め、コンプライアンスの確立、不祥事を起こさない、起こさせない職場環境づくりを目的に12月4日、全職員を対象としたコンプライアンス研修会を開きました。

はじめに、佐藤組合長が「法律と常識を守ることで私たちは社会的貢献を果たしている。この研修でコンプライアンスについて学び、全役職員が同じ気持ちで、不祥事が絶対起きないようにしてもらいたい」とあいさつ。その後の研修会では「不祥事の状況とコンプライアンス」についてJAから説明されたほか、「パワーハラスメント防止」、「独占禁止法の遵守に向けて」ではDVDで内容を学びました。



▲コンプライアンスの重要性を全職員で確認



▲わかりやすい説明をする袴田窓口担当(右)

窓口対応力の向上を図る

共済課

全県スマイルサポーターロールプレイングコンテストが秋田市で開かれ、県内JAから10人の窓口担当者が接客技術を競いました。

事前に行われた予選会を突破した、本店共済課の袴田郁実さんが当JAの代表として出場し、自動車共済の継続時のグレードアップをテーマにロールプレイングが行われました。惜しくも入賞ありませんでしたが、袴田さんは笑顔でわかりやすい説明をしました。コンテストを終え袴田さんは「他JAのロールプレイングを見ることができとても参考になった。今回の経験を活かし、ひとりでも多くのお客様に安心をお届けができるよう努めていきます」と話してくれました。

強盗・特殊詐欺を想定し防犯訓練を実施

藤里支店

金銭の出し入れが多くなる年末を迎えるにあたり、非常時の対応・役割分担等を確認するため12月11日、藤里支店において防犯訓練を行いました。

能代警察署の協力のもと行われた訓練では、犯人役の警察署員が拳銃を持って職員を脅し、現金を要求する形で実施され、迫真の演技に圧倒されながらも、犯人の特徴や逃げた方向を覚えるなど、防犯マニュアルに沿った各々の役割を果たしました。また、「特殊詐欺」の防止訓練も行われ、高額を現金で引き出しにきたお客様役に対し、窓口職員が詐欺の可能性を確認して警察に連絡するなどして被害を水際で防ぐ手順を確認しました。



▲包丁を持って現金を要求する犯人役の能代警察署員



▲栽培技術向上に理解を深めた

気象変動に強い稲づくりを

経済課

あきたe c oらしいすの生産に向け、12月4日と5日に肥料・農薬レベルアップ研修会が能代市工業団地交流会館で開かれました。生産者ら約80人が参加し、次年度へ向けて栽培管理に理解を深めました。

研修では、あきたe c oらしいす対応の稲作技術や次年度への対策、肥料・農薬の効果的な使用方法などについて各担当者が説明しました。このうち、あきたe c oらしいす対応の稲作技術では、地域振興局職員が「近年は天候の変動が激しく、それに耐えることができる土作りが必要。また、肥料の種類も多様化しているので、圃場条件や特性をよく理解することが大切」と呼び掛けました。